

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	敬老祝賀事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	介護高齢課			1	3	1	4	15	2	5,315
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり				包含する細々目							
施策	35 高齢者福祉の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条件等		飯田市高齢者祝金交付要綱				
		事業期間	S47	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	その年度中に88歳、100歳になる方、市内の長寿上位3名の方。	祝賀訪問対象者数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			515			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	対象者を訪問し、長寿をお祝いすることにより、高齢者を敬う。	市内に住む高齢者数	18目標	28432	最終目標	
			18実績	28432	19目標	28754
			23目標	30000	23実績	
		訪問者数 / 対象者数 * 100	18目標	98	最終目標	
			18実績	98.5	19目標	98
			23目標	98	23実績	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	高齢者の長寿を祝い老人福祉の向上に資するため、年度中に88歳、100歳になる方及び市内の長寿上位3名の方に祝金品を贈る。	88歳の方へ挨拶状、祝金10,000円 100歳の方に挨拶状、祝金10,000円 市内長寿上位3名に5,000円相当の祝品を贈呈。 市内の長寿者番付を公表。(事前に意向調査実施)	対象者数、人数。 訪問者数	469 462
	18年度の実績			
	19年度計画	88歳の方へ挨拶状、祝金10,000円を贈呈する。 100歳の方に挨拶状、祝金10,000円を贈呈する。 市内長寿上位3名に5,000円相当の祝品を贈呈する。 市内の長寿者番付を公表する。(事前に意向調査を行う)	対象者数、人数。 訪問者数	515 504

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	4,793	5,315
	事業費計(A)	4,793	5,315
人件費	正規職員所要時間	18年度 210	19年度 180
	臨時職員等所要時間		30
	人件費計(B)	751	676
	トータルコストA+B	5,544	5,991

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	安心していきいき暮らせる	いきいき暮らせている高齢者の割合(%)	現状値	68.69	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	70
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ 高齢者各位の長寿を祝すとともに、広く市民の間に敬意の精神を高めるために、昭和47年9月より開始した。	事業を取り巻く状況の変化 高齢化の進展と平均寿命の上昇に伴い、祝賀対象者が増加している。 100歳の対象者には、国、県からの賞状や祝品が届けられ、同時にお届けしている。	事業に対する市民や議会の意見 直接理事者等が訪問するので、話ができて励みになったとの声が聞かれる。 社協役員などからは、対象者が「次の祝金をいただくまで元気であると頑張っている」などの事例が聞かれる。 対象者の家族の中には、家を片付ける時間が無いことや、家族が勤めに出て不在であることから、届けるのではなく、りんご庁舎などで受け取ることを希望される方もある。
---	--	--

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 敬老の日前後に、飯田市として具体的に敬老行事を行うことで、お住まいになっている高齢者を敬っている。	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がない (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 平成13年度、平成15年度、平成17年度、平成18年度に見直しを行ない、現在の形となった。	廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 国・県・社会福祉協議会からの祝品を同時に贈呈しているが、市の高齢長寿に対するの敬う姿勢を示せない。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 市・県・国として高齢者を敬うための事業の一環であり、継続していく必要がある。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 関連事業あり (類似事業名、理由) 国・県・市・社協が一体となって敬老事業を構成している。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 理事者等が訪問することにより効果が上がる。 88歳の節目の年をお祝いすることにより、高齢長寿を敬う。	効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 地区での配布について自治振興センターに依頼している。旧市について配布方法の見直しを検討しているが、市としての事務量としては同程度となる。
	公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は該当者。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 18年度に、99歳・101歳以上への祝い金を中止したところであり、当分の間は現状維持したい。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	将来、対象者が増えた場合の予算対応。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断 必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	